

ENEOS スーパー耐久シリーズ2023 Supported by BRIDGESTONE 第7戦 S耐ファイナル 富士4時間レース with フジニックフェス.



ROADSTER CUP
1.5/1.6/1.8/2.0
Round 4

11.11Sat.12Sun.



逃さず、#23山本がトップに浮上。そのまま逃げ切りなるかと思われたが、最後の直線で#77長岡が前に出て総合優勝と2.0 Openの2勝目を挙げ、初の王座獲得となった。「最後、オヤジの執念で、油断したんじゃないかな。なんとか間に合ったって感じで、最後はテクニックじゃなく(笑)。あと何年できるか分かりませんが、これからも続けていきます」と#77長岡。一方、#23山本は1.5 Openの王座奪還を4戦4勝で達成。「最後、10km/hも直線違ってましたか。それじゃあね」と苦笑するも、表情には満足感があつた。

今回も5クラスが成立し、42台がエントリー。予選は直前まで霧に見舞われる。これだけの台数の中、「最後にやっとクリアラップが取れた」と語る、2.0 Openの#77長岡哲也がPPを獲得。同クラスの2番手は#101高橋裕史ながら、その間に1.5 Openの#23山本謙吾が割って入る。1.8クラスは#8関野大志が、1.6クラスは#34竹田幸一郎が、そして1.5 Challengeは#28石塚崇宣がトップ。

決勝レースは、霧の名残でライン上は乾いていたものの、外せばしっかりと濡れたままで、1周目はスピンやコースアウトが多発。そんな混乱をよそに先頭でTGRコーナーに飛び込んでいったのは#77長岡で、#101高橋が2番手に浮上。だが、#23山本は遅れず続いて、2周目には#101高橋を抜き返す。3周目からはトップ争いが一騎討ちになるも、5周目のアドバンコーナーでの相手のミスで

1.8クラスは予選3番手だった#91神谷誠が1周目のうちにトップに立ち、そのまま逃げ切って3勝目を挙げ、連覇達成なって「展開が良くて前に行けたのでラッキーでした。来年も継続の予定です」。1.6クラスも3勝目を挙げた#34竹田が「一安心です。運にも恵まれました」と、やはり連覇に成功。

1.5 Challengeは#28石塚が2連勝飾るも、チャンピオンは1ポイント差で、2位でゴールの#155松原泰世が獲得。「今年デビューなので、経験不足だから獲れませんでした。成長は大いに感じました」という#28石塚、「もちろん勝って決めたかったです。求められているのはどっちなかと考え、途中から目標を切り替えました」という#155松原。ふたりとも本音で語ってくれた。



RESULT リザルト 1.5 Open

Rank No.	Name
1	23 山本 謙吾
2	112 池島 実紅
3	20 佐藤 文昭
4	7 茂木 文明
5	79 杉浦 良
6	10 国分 務



RESULT リザルト 1.5 Challenge

Rank No.	Name
1	28 石塚 崇宣
2	155 松原 泰世
3	281 長 和樹
4	50 田中 悠太
5	153 桂 涼
6	63 小野 佳寿美



RESULT リザルト 1.6

Rank No.	Name
1	34 竹田 幸一郎
2	27 野木 強
3	36 伊藤 遼太郎



RESULT リザルト 1.8

Rank No.	Name
1	91 神谷 誠
2	8 関野 大志
3	88 山田 健介
4	15 中村 英貴
5	35 勝とう常時
6	11 松浦 健



RESULT リザルト 2.0 Open

Rank No.	Name
1	77 長岡 哲也
2	101 高橋 裕史